

六重奏 華やぐタンゴ

現代のアルゼンチンタンゴを華やいたアンサンブルで奏でる六重奏団オルケスタ・アウロラが、2枚目のアルバム「ブエノスアイレスのアウロラ」を12日に発表する。題名通り、本場ブエノスアイレスで録音。現地公演も成功させて波に乗る演奏を、同じく12日に東京・九段会館でのコンサートで披露する。(藤崎昭子)

オルケスタ・アウロラ、本場で録音・評価

リーダーはバイオリンの会田桃子とピアノの青木菜穂子。ともにピアソラの曲、演奏に衝撃を受けてタンゴの演奏を始めた。バンドネオン、ベースを含めた正統派の編成で、「悪い仲間」などの人気曲やメンバーが敬愛するピアソラの曲、オリジナル曲を奏でる。甘美な旋律はブエノスの街角の爛熟した空気よりも、タンゴへの純粋なあこがれをのせて新鮮だ。

ダイナミズムや陰影を出すために「腕力」も求められるタンゴ。女性バンドマスターは珍しがられるが、8月の南米ウルグアイ、アルゼンチンの両首都での公演は、同行者によると、力量と大胆なアンサンブルが観客を沸かせた。

会田は言う。「おみそ汁とご飯で育った日本人にとって、タンゴに限らず西洋



オルケスタ・アウロラ=永友啓美氏撮影

音楽には大きな壁がある。新たなタンゴを生み出そうと意気込んでは、現地に行つてその自信を打ち砕かれる。ただ、壁の見え方は毎年変わってきた」と語る。会田はウルグアイ公演後に現地のピアニ奏者ウーゴ・ファトルーソの録音に参加し、「この間みたいは日本のテイストを出して」と求められた。青木も、自作曲がブエノスで「これが日本のタンゴだと感動した」と言われ不思議に思った。

「私たちは日本的な要素を入れているつもりはない。ただ、アウロラの演奏の静けさや深みの部分が、日本を感じさせるのかもしれない」と青木。作曲や編曲もする2人。今回のアルバムにも2曲ずつオリジナル曲を収めた。会田は「例えばピアソラがどんなに前衛的になっても、人の心にずばっとくるキヤッチーな何かが必要。作曲家として理想にしている」。ブエノスでの録音は「タンゴを知り尽くしたエンジニアのもとで、緊張より安心感が大きかった」と会田。青木も「スペイン語が飛び交うスタジオは気合が入る。低音のとり方もさすがで、集中できた」と言う。

新作ではゲスト歌手にフリーア・センコを迎えた。ピアソラの「私はマリア」などで共演し、メンバーは刺激を受けた。バイオリンのギドン・クレイメルとピアソラの曲で共演した人気歌手だ。

12日の公演にはフリーアがゲストとして駆けつけ、タンゴダンス世界選手権で今年優勝したデイエゴ&チズコムステージを彩る。問い合わせは電話03・5768・5588(ラティーナ)。